

理科分科会 エデュスクラムの活用における成果と課題

	成果	課題
課題設定	「植物が成長すること＝でんぷんの力で育つこと」を捉えさせ、そのでんぷんは植物のどこにあるのかを問題として立て、単元を進めた。問題解決のための実験方法を考えさせることで、そのでんぷんは日光によってできるのかという問題を調べてみたいという意欲へとつなげることができた。	今回は、ジャガイモの葉で調べたが、他の葉でも調べたいという意欲をもたせることができたなら、問題解決のエデュスクラムが児童から展開されていくと感じた。
フリップやアイテム完成の定義	完成の定義は、班で一人になったとしても計画書を見て、実験を行うというきまりのため、班員がページを見て、分からないことがある場合は、ページの完成としないこととした。ページを見て、みんなが納得、一人でもその計画で実験できることが完成の定義としたため、班員同士で実験方法を深く考察することにつながった。	タブレットの操作に差がある。しかし、継続して行うことでできることが増えるようになって考える。計画書を班で作成することによって、一人一人の作業の軽重の差がある。
ブック	実験計画を前時立て、その計画をもとに実験計画を考えさせることで、班だけでなく、一人一人が計画を立てるため、参考にするものを増やすことができた。計画書の前には、実験において変える条件、変えない条件を出し、クラス全体で共有させ、手順については、スライド1ページ目に「学BOOK」として示すことで見通しをもたせることができた。	ブックをもとに実験計画を作成することで、限られた実験計画しか立案できなくなってしまう部分がある。
協働的な関わりを促す手だて	チェックリストを活用させることで、その実験計画で問題解決できるかを班員同士で考えさせることにつながった。	チェックリストがなくても、実験計画書を立てられるように今後指導していく必要がある。
授業実践で明らかになったこと	○発表に向けて、何をどのようにすればより分かりやすい説明ができるのか工夫する姿が見られた。 ○計画書が完成した達成感を感じている様子が見られた。計画書を作成する前の実験計画を作成し、どの実験を行うかを議論している様子は、前向きに取り組んでいる児童が多かった。	